

平成30年北海道胆振東部地震について

9月6日に発生した「平成30年北海道胆振東部地震」で被害を受けられた皆さまに、心からお見舞い申し上げます。

苫小牧市は震度5強を観測しましたが、幸いにも上下水道部で管理する施設に、大きな被害はありませんでした。

しかし、停電が発生したことによって水が出なくなった建物があり、電気が復旧するまでの間、市内9箇所に応急給水所を開設したほか、浄水場や下水処理センターでは非常用発電機を運転し、動力を確保するなどの対応を行いました。

また、最大震度7を記録した厚真町をはじめ、安平町、むかわ町、日高町にも職員を派遣し、被災した各町への支援を行っています。

今回の震災で改めてライフラインの大切さを再認識することになり、私たち上下水道部でも様々な条件の災害に対応できるよう、より一層の努力が必要であると感じています。



苫小牧市内での応急給水の様子



厚真町での応急給水の様子

停電で水が出ない？

今回の地震では、水道管が破損しての断水は、ありませんでした。

では、なぜ水が出なくなったのでしょうか？水が出なくなった建物のすべては、電力で動くポンプを使って給水する方式であったからです。

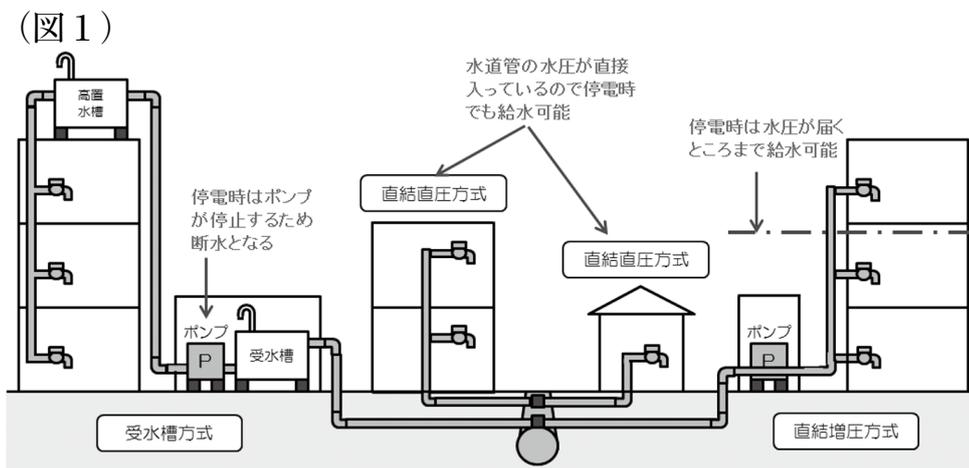
また、電動水抜き栓の種類によっては停電の際、通水から水抜き状態になるものもあります。停電後、水が出ない場合は、まず水抜き栓を確認してください。

給水方式について

給水方式には大きく分けて「直結直圧方式」「直結増圧方式」「受水槽方式」の3つがあります。

今回の停電で水が出なくなったのは、高層の建物や病院などに使用されている「直結増圧方式」「受水槽方式」であり、一戸建やアパートの多くは「直結直圧方式」で給水されているため、水が出なくなることはありませんでした。今回のような停電時に対応するためには、非常用の電源設備や水道管の水圧が直接届く水道設備の設置が有効な手段の一つとなります。

給水方式は災害発生時に非常に大切な情報となります。ご自身がお住まい



の建物がどのような給水方式か不明の場合は、建物を管理している管理会社や大家さんにお問い合わせください。また、各給水方式には災害時の対応や維持管理に長所と短所がありますので、詳しい内容は図1と表1をご覧ください。